

劇場都市 TOKYO 演劇祭参加、脱退の経緯について

日頃サスペンデッツを応援くださりありがとうございます。

去る1月18日から23日まで新宿雑遊と言う劇場で第20回公演『Living』を上演し、たくさんのお客様にご来場頂きました。誠に感謝御礼申し上げます。

さて、その公演は劇場都市 TOKYO 演劇祭参加となっております。この演劇祭参加の経緯は雑遊の高木さんが文章を出してくれています。

<http://www.zatsuyu.com/news.220128.html>

こちらにあるように、12月に雑遊さんの方から演劇祭の参加を打診され、お世話になっている劇場さんからの声掛けに断る理由もなく参加を決定した次第です。この時点では演劇祭についてあまり情報も無く、協賛企業があることも知りませんでした。

その演劇祭の趣旨、開催意義が思想信条の絡んだ騒動となりました。その趣旨が批判されているようなものであれば、私や劇団の方向とは全く相いれず、そのような趣旨の演劇祭に参加してしまったのかと困惑し、参加を取りやめるにももうすでにその名において上演は終わっており、どうしたものかと苦慮しておりました。しかし、雑遊の高木さん、風姿花伝の那須さんの説明文を読みますと、そもそもそのように説明を受けておりましたが、趣旨はやはり純粋に演劇界を盛り上げたい一心なのだ、他意など無かったのだと思われ、そう信じ、そのように理解致しました。私もその趣旨だけならばもちろん全く異論なく、その趣旨で演劇祭を開催して頂くことは有難く感謝しかございません。そこで実行委員会公式の発表を待ちましたが、未だ説明が出ておりません。このタイムラグは何なのか？雑遊さん、風姿花伝さんの思いはわかったつもりですが、全体としては何かを調整しなければならない部分があるのか、だとすればそれは何なのかと訝り、不信感が残っています。結果的に実行委員会に対して解消されない違和感がありますので、劇団といたしましては演劇祭から脱退する決定をいたしました。演劇祭の運営に不手際があったことは否認ませんが、我々といたしましても、確認作業をせずに参加を決定したことは反省しきりでございます。関係者の皆様にご心配ご迷惑をおかけしたことをお詫び申し上げます。

尚これは当劇団の判断であり、他の参加劇団について言及、批判する意図は全くございません。何卒ご理解くださいますようお願い申し上げます。

サスペンデッツをご贖下さり誠にありがとうございます。今後ともよろしく願い申し上げます。

令和4年1月30日
サスペンデッツ主宰 早船 聡